

黒河(くろこ)の会便り 第 37 号

◆ 電光板

JR・南海電鉄橋本駅前広場の電光板が「祝黒河道」になりました。昨年 10 月 24 日「高野参詣道・黒河道」として世界遺「紀山地の霊場と参詣道」に追加登録されたことにより、黒河道を目指す登山者が増えているとの駅前の橋本市観光案内所の話です。市の物産などを展示していた観光ウインドも黒河道一色です。



◆ 黒河道道標

昨年 10 月世界遺産に追加登録された「高野参詣道・黒河道」の道標が賢堂に建ちました。↑



世界遺産に登録されたこと、案内板道標が少ないとの声を受け、また春からは登山客も多くなると予想され、まず黒河道の起点である「定福寺」付近の市道賢堂・清水線と市道五軒畑線の交差点と、ドバイ坂の入口に設置されています。

和歌山県と市当局により設営されたものですが、今後も黒河道の道沿いに順次たてられるよう増加に対応したいとの計画です。新しい地図も作成中です。黒河道は橋本市、九度山町、高野町を通過しており、今後 1 市 2 町での補修管理体制が望まれます。

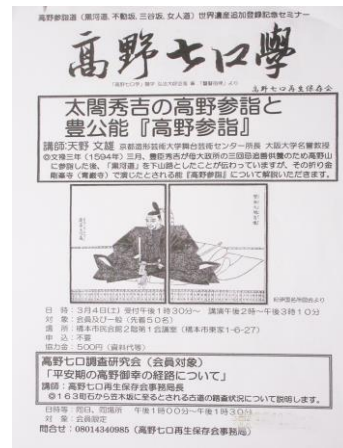
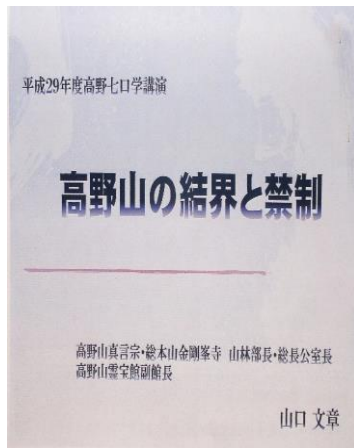
◆ 定福寺に飛龍上観音像

定福寺・登録文化財庫裏の囲炉裏の間に「飛龍上の観音像」の木彫仏が飾られました。龍の背中に白衣で座る観音像は 通称「怠け遍路」として知られる兵庫県に住む仏師の作で、同仏師を尊崇する高野山麓の遍路夫婦の仲立ちで 黒河道が世界遺産登録されることを祈念して先祖の菩提寺でもある定福寺に奉納されたものです。さる 2 月 9 日、紀州高野組子細工師・池田秀峰氏と ふるさとの山に花をの会・山本洋久氏等により飾りつけられました。定福寺では昨年大阪阪南市の彫板家・田村氏の寄贈で 1 月 21 日本堂に祀られた十三佛彫板画とともに拝観されるよう願っています。(囲炉裏の間に飾られた飛龍観音↓ 高野中門の再建の残材に彫刻した地藏菩薩↓)



◆高野七口学

2月12日（日）高野七口学では、高野参詣道世界遺産追加登録記念セミナーを橋本市産業文化会館にて開催しました。講師に山口文章・金剛峰寺山林部長兼総務公室長による「高野山の結界と禁制」と題しての講演と、高野七口再生保存会事務局・入谷和也氏による「黒河道の経路を示した史料について」の説明が有りました。会場となった産業文化会館（アザレア）小ホールは満席の盛況でした。



次回の「高野七口学」は3月4日「太閤秀吉の高野詣と豊公能・高野参詣」と題し、京都造形芸術大学舞台芸術センター所長・大阪大学名誉教授の天野文雄先生をお招きしての講演です。

場所 橋本市市民会館2F第1会議室、 受付 午後1:30～ 講演 午後2:00～3:10

◆第20回ボランティア体験フェア

第20回ボランティア体験フェアが1月29日橋本市保健福祉センターで開催されました。

高野七口再生保存会のブースでは、世界遺産となった黒河道での活動紹介として、雑事登り（ぞうじのぼり）などを展示しました。↓



◆節分星祭り

紫雲山定福寺にて2月3日「厄除け星祭護摩」の節分会が行われました。↑



祝、世界遺産・・・の横断幕のかかる定福寺への参道や境内に、150本に及ぶ竹灯籠が灯され、本堂では生地清祥住職と檀徒役員による読経の中、檀家約200件が申し込んだ経木に家内安全・無病息災の祈りをささげました。最後に檀徒総代長による「福は内 鬼は外」との豆をまきで法会を終えました。

黒河の会 山本 一清